

# 若い力で 標茶を盛り上げたい！

しべちゃフェア実行委員会

実行委員会会長 長坂 浩行



5月13日から6日間、イオン釧路店で  
開催された「しべちゃフェア」。実行  
委員の中心として活躍した彼らのまち  
おこしに対する情熱を紹介します。

農家の方が搾った牛乳を、もつと多くの方に飲んでもらうために、本町では以前からしべちゃ牛乳を無料で配布するなど、本町の牛乳のおいしさをPRする活動を行っていました。活動する中で、たくさんの方に牛乳を飲んでもらうためには、本町に興味をもってもらえるような活動を行わなければいけないと、長坂さんは思いました。

そこで、牛乳のみではなく、本町の特産品を販売するイベントを開催したいと考え、自らが所属する農協青年部内のフロンティア21に加え、農学ゼミナールと話し合いました。その中で、商工会青年部とも連携することで、新たな発見が生まれるのではないかとかと思いや意見があったことから、若者たちの力を集結し標茶町の盛り上げにつなげたいということで、しべちゃフェア実行委員会を立ち上げ、本町の魅力あふれる商品を多くの方に広く知ってもらうことをテーマに、町内の14店舗が特産品を出品しました。

### 目標に向かって突き進む

発足した当初は、仲間集めからはじめたので、イベントに対する不安がありました。今回のような大きなイベントを開催した経験はなく、開催に向けてどのように行動すれば良いか分からない状態でした。出店する商品の品数の調整や保健所への申請、宣伝活動の方法など開催に向けて多くの課題が発生しました。さらに、今回のフェア開催は、今まで関わりが少なかった方々と協力して企画を進めていくため、連携に対して不安やお互い

の考え方、主張の違いによって問題やトラブルが発生するのではないかと心配もありました。

何をするべきか悩んでいたところ、まずは自分たちが商品を知る必要があるのではないかとアドバイスを受け、フェアに出品する商品の試食会を行いました。試食会で販売店の方からの商品の説明を聞くうちに商品に対する思いを理解し、自分たちで販売することの使命感が湧いてきました。また、試食会の中では、お互いの意見を話し、理解し合うことで、実行委員や販売店との距離も縮めることができ、フェア開催に向けて大きく前進するきっかけになりました。

### みんなの想いが結果に

準備段階での心配とは裏腹に、しべちゃフェアは大好評で、そのときの状況を「気付けばあっという間」と表現した長坂さん。

開催前にラジオ放送やイオン釧路店でミルククックさんやハッピーくらべと一緒にピラ配りを行うなどの宣伝活動を行い、実行委員会の予想を超える来客数でした。

開催当初は、会場での呼び込み活動や店舗レイアウトなど不慣れな点がありましたが、実行委員会みんながより良いものにとしようと話し合いながら改善した結果、しべちゃフェアは大盛況のうちに幕を閉じました。

### 継続は力なり

しべちゃフェアを終えて、長坂さんは「多くの方々の協力によってフェアを無事に終えることができました。職種を超えて多くの方々と協力してきたことがとても良い経験になり、同じ思いを持つている人たちが力を合わせればどんなことでもできるという自信を持つことができました。今回のフェアで得た経験を次に生かして行きたいです。」と今後の意気込みを語っていました。副会長の寛さんは「標茶にはいろいろな団体がありますが、標茶を盛り上げるためには団体関係なく同じ志を持つ方たちが集まって発信して行く必要がある。」と今の気持ちを聞かせ

てくれました

これからの標茶を盛り上げていく活動に対してお二人は「まずは標茶をPRする活動を続けていくことが大切だと思います。今回は標茶を知ってもらうための企画でしたが、次はそこから発展した活動をしたいです。具体的な活動の一つとして子どもたちも参加できるような冬のイベントを開催したり、関わりが少ない団体とも積極的に対話して協力してもらい、町全体で標茶の活性化をしていきたい。」と今後の抱負について語ってくれました。



(右上) 実行委員会会長の長坂さん  
(左上) 実行委員会副会長の寛さん  
(下) 多くの方々にぎわったしべちゃフェアの様子